

(銀のエンジェル賞 小学生中高学年の部)

まめとぶどう

小三・村田 藤樹

ある村にふしぎな畑がありました。それは、まめとぶどうができる畑です。まめとぶどうはいつもけんかばかりしていました。

「おれの方が丸い。」

「ぼくの方が丸い。」

と、毎日どっちの方が丸いかけんかをしていました。あお虫が、「どっちも丸いよ。」
と、言っ後ろを歩いていきました。

ある日、畑の前に住む男がまめとぶどうをしゅうかくしに来ました。

「これは、まん丸でおいしそうだ。」

男は、まめとぶどうを木のかごに入れて帰りました。そして、かごをテーブルの上におきました。男は、そのままつりに行ってしまいました。まめとぶどうは、男の家からにげ出しました。

まめとぶどうが歩いていると、とつぜん、丸くて白い物がとんできて、コロコロと二人の目の前にころがってきました。野球のボールでした。

「きみは、なんて大きくて丸いんだ。」

「ぼくより大きくて丸いものはまだまだあるさ。」

と、野球ボールが言いました。まめとぶどうはびっくりしました。

まめとぶどうは町にやってきました。道のよこに大きくて丸いものがたくさんありました。

「ここで何をしているの？」

と、まめが聞きました。

「おきやくさんが来るのをまっているの。」

と、オレンジ色の丸いものが言いました。

「ここはくだもの屋だよ。」

と、黄緑色の丸いものが言いました。

「ぼくたちあまくておいしいよ。」

と、緑色の丸いものが言いました。みかんとメロンとスイカでした。

「きみたちは何をしているんだ？」

と、スイカが聞きました。

「大きくて丸いものをさがしているんだ。」

と、ぶどうが答えました。

「大きくて丸いものならそこにもあるよ。」

と、メロンが言いました。まめとぶどうが道の向こうを見ると、

大きなものがとまっていました。

「あれは何だろう。」

と、まめとぶどうは近づいていきました。車でした。車には、丸い

ものが四つもついていました。

「その大きくて丸いものは何？ 四つもいらないよね？」

と、ぶどうが聞きました。

「これはタイヤだよ。四つなかったらバランスもとれないし、走れないだろう。」

車はブーンと音をたてて行ってしまいました。まめとぶどうは、クルクル回るタイヤを見て目が回ってしまいました。

夜になりました。まめとぶどうは、空を見上げました。そこには、とてつもなく大きくて丸いものがありました。月でした。

「なんて大きくて丸いんだ。」

と、まめがさげびました。

「まん月だからさ。」

と、月が言いました。

「きみより大きくて丸いものを見たことがあるかい？」

と、ぶどうが聞きました。

「うちゆうには、ぼくより大きくて丸いものがいっぱいあるよ。」

と、月がわらって言いました。月よりも大きくて丸いものがいっぱい

あるなんて、まめとぶどうはびっくりしました。

「うちゆうってどんなところなんだろう。」

と、まめが言いました。

まめとぶどうは畑に帰りました。そして、みんなに見つけた大き

くて丸いものを見ようかと思いました。それから、まめとぶどうは、

どっちが丸いかけんかをしなくなりました。
